「院内勉強会活動報告」
～救急医療画像カンファレンスの開催～

公益委員　新久喜総合病院
眞壁　耕平

近年医学は日々進歩しており、医療技術の高度化、複雑化に伴う業務増大に対応するため、多種多様なスタッフがそれぞれの専門性を高め、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」がさまざまな医療現場で実践されている。その中で私たち診療放射線技師は、よりスムーズな医療を患者に提供できるよう、多職種に対して放射線の正しい知識の院内勉強会を開催することが望ましい。

当院は2016年4月より新法人へ移行し、新たに24時間365日“断らない病院”へと生まれ変わり、救急搬送件数も増大している。そのため、救急科を中心としたメディカルスタッフ間での情報共有を図ることを目的とし、「救急医療画像カンファレンス」と題した勉強会を2週に1度、診療放射線科、臨床検査科、救急科医師を交えて開始した。現在までに行われたテーマは「脳梗塞」「高エネルギー外傷」「イレウス」「心タンポナーデ」「気胸」といったもので、実際に救急搬送された患者データを基に、診療放射線科と臨床検査科で撮影された画像や検査値から読み取れるものを解説し、最後に救急科医師からの見解やテーマに対する講義を行い、1時間程度の勉強会となっている。

参加者も毎回20人を超え、有意義な勉強会となっており、今後も継続する方針となっている。

その他に、診療放射線科としては、救急対応をする際にポータブル撮影とFASTが重なることがあるため、ポータブル時における被ばくの説明も行っている。日常業務においては臨床検査技師もMRIを撮影することもあるため、画像解説の他に、吸着事故を未然に防ぐ内容や造影剤の説明も取り組むことで、診療放射線技師としての役割を担っている。またこの勉強会の最大のメリットは実際に救急対応している医師が参加するため、ディスカッションをすることで業務改善を図ることができている。当院では実際にCTとMRIが2台ずつ稼働しており、救急患者がいつ搬送されても撮影できるようにとの要望があり、それぞれ1台の予約枠の変更を検討した経緯がある。

今後の展望として、現在行っている救急画像カンファレンスに救急外来看護師や病棟看護師、リハビリスタッフを加え、規模を広げ、正しい知識、役立つ情報を共有することで診療放射線科を中心とした「チーム医療」の質の向上を目指していければと考えている。

図1：CT画像を用いた症例発表の様子

図2：救急科医師による講義風景